



- P 大梁圧縮フランジから決まる荷重
- a材 Pに抵抗できる部材性能と、接合部
- b材 Pを横腹で受けることが出来る



ブレースの無い状態だと、大梁とb材は上の図の縦方向に同一変位せず、a材は左図のようにローラー支点状態で、横補剛材（圧縮材）として性能を発揮できない。



ブレースを入れてあげると、大梁とb材は上の図の縦方向に同一変位し、a材は左図のようにピン支点状態となり、横補剛材（圧縮材）として性能を発揮できる。